



蔵本通支坊で行われた安芸南組報恩講の子の集い。シャグレンジャー（広島学院の大道芸クラブ）の大道芸で盛り上がるほとけの子供。



長ノ木本坊売店の皆さん。



『ご絵伝』（親鸞さまの伝記絵巻物）の絵解きの様子（蔵本通支坊ご正當報恩講）。ただの絵解きではなく、伝記にまつわる写真を見たり、恵信尼さまや親鸞さまのお手紙や著書など、肉筆（写真版）に触れながら、みあとを偲びました。



長ノ木本坊のご正當報恩講。大連夜は、部屋を暗くしてローソクの明かりで『御伝鈔』を拝読。

連 載 **ビルマの豎琴は音もなく**

—ミャンマーのパゴダ巡り① 齊藤久仁子



ミャンマーとの出会い

いとし子よ

ラングーンは陥ちたり

いざ汝も勇ましく入城せよ

姿なく声なき汝なれども

：

国民学校（戦時中の小学校）六年生の時の国語で習った「姿なき入城」という詩の第一連である。内容はラングーン（ヤンゴン）。戦時中は英語が敵性語として禁止されていたにもかかわらず、こう英語呼びされた）攻略作戦で戦死した息子の霊に母がラングーン陥落を知らせた

みの中で、異国に野ざらしにされた骨を拾う人の物語を、泣きながら何度繰り返して読んだことだろう。寝釈迦の中の水島上等兵に呼び掛ける場面、いくら呼んでも返事はなく、やがて豎琴の音が聞こえてくる…。引上げ船上で隊長が読む水島からの手紙。戦死者を弔うために一人ビルマに残る水島。戦争の悲しみと、人間性を信じて生きていくことの美しさといったものが、それを読む、戦火をくぐり抜けて生き延びた十代の子どもの胸にしみた。

もので、第二連以下は、ビルマ上陸作戦で息子が勇ましく戦ったことを讃える言葉が続く。そして今、母は祭壇を荘厳して、汝の死後友兵たちによつてみごと陥落したと報告し、姿なく声なき息子と一緒に入城せよ、と呼びかける、戦意高揚を図る代表的な作品であるが、当時軍国少女だった私を感動させた詩の一つで、私にとってはビルマとの最初の出会である。ビルマと私の第二の出会い、竹山道雄作の「ビルマの豎琴」によってある。国家体制も社会思想もなにもかもがひっくり返った敗戦の苦しさ

それから何十年、縁あってアジアの仏跡を拝しに行くうちに、ビルマには寝釈迦だけでなくすばらしい仏跡が多いことも知り、行きたいと